

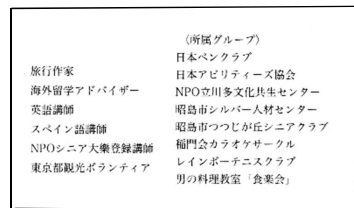
「男子、厨房に入るべし！」

「定年になったら名刺を作ろう」と周囲にも呼びかけている私の名刺にはいろいろと印刷されています。表は名前と住所・連絡先のほかに、名前の左肩に「ドン・キホーテを生きる自愉人」との肩書きを付け、その右には名作『ドン・キホーテ』の最も有名な場面——遠くに見える



る風車を“悪魔の巨人”と見たドン・キホーテが槍を片手に馬(ロシナンテ)にまたがり突進していく——イラストが描かれています。

裏面には関わっている仕事やボランティアと、所属しているグループの名前が数多く書かれています。「定年になったら自分の生き方を主張するような名詞を」といった思いからです。



面白いのは初対面の方に名詞を差し上げたときの反応です。相手は名詞の裏表を眺め、所属グループの最後にある「男の料理教室：食楽会」に目をとめると「エッ 清水さん料理もするんですか？」なんて質問が出てくる。そんなときはおもむろに、少し冗談調で返事をするのです。



「そうですねえ、和・中・洋あわせて 100 以上のレシピがありますかねえ」。

現役時代、包丁すらめったに握ったことのなかった私は、定年になると近くの料理学校に通いました。1テーブル6人の受講生は、私のほかは結婚を控えた女性と新婚さん、それに 50 代後半と思われる主婦でした。私は不思議に思い“なぜ教室に”とその婦人に尋ねてみました。すると：

「実は私の夫も定年になりました。現役時代は朝と夕の食事の準備だけでよかったのが、今度は昼も家にいるんです。時間になるとテーブルに座り食事の出てくるのを待っている。もう出すものがありません。だからここで勉強しているんです」。そこで私は『あなたと同じ定年男性も教室に来ていますよ』と言ったらどうですか」と勧めましたが変化はありませんでした。

一方、私はといえば、孫などが訪ねてくると料理はだいたい自分の出番。「お爺ちゃんの料理美味しい！」なんて孫の笑顔。また新聞に美味しそうな料理の記事が載ると妻に言います。「ようし、夕食は俺がやってみようか」なんて・・・。

よく「妻に先立たれた高齢男性の平均余命は 3 年、夫が先に亡くなった妻の平均余命は 15 年」と言われているようです。男はまず食べていくことの不便さに直面するのに対して、女はうるさい夫がいなくなってせいせい、ますます元気になっていく、というわけです。面白おかしくするために、若干の誇張があるかもしれませんが、本質的には変わりませんね。

定年後の“地域デビュー”が取り上げられていますが、私は、まずは“家庭デビュー”「男子、厨房に入るべし！」だと思っています。私自身、定年後に料理とは夢にも思いませんでしたが、やってみると面白い。なによりもグンと世界が開けていきます。すでに定年になった、またこれから定年を迎える皆さんに「まずは料理から」とお勧めする次第です



留学生たちを招いて (スペインで)